

e-ビーフNEWS 北の牧場から

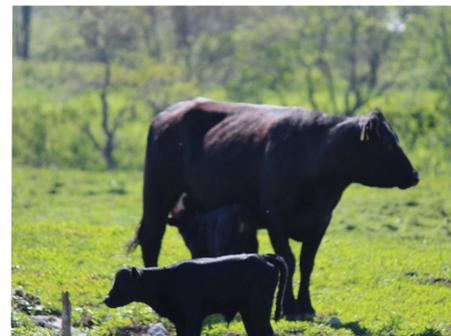
August 2024

十勝は亜熱帯

朝は20℃と涼しいが、日中は30℃に達し直射が痛いほど。夕方になり気温の急に下がり涼しい風が吹いてくるとホッとする。昨年の熱帯夜がよぎる。人も牛もギブアップだ。

十勝の主産物、小麦の収穫も連日の好天気恵まれ、収穫も順調で高収量高品質が期待される。それに合わせて牛の寝床に使う寝藁も、黄褐色の大きなロールになって牧場に搬入されてきた。今年は昨年以上に取れたようだ。小麦がいいと農家喜び一段落。しかし、雨が降らず干ばつ気味で、始まった早イモ収穫では、小粒で収量が悪い。やっとここにきてスコールの様な土砂降りが続くが、時はすでに遅いだ。

牧場の牛たちは、去年の反省で暑さ対策が効いたのか、今のところ事故もなく順調。これ以上熱帯にならないことを祈る。



活動のお知らせ

- 9月19日(木) **食肉の生産から食卓までを繋ぐ"日本産肉研究会第34回学術集会** 京都大学 第II会場
13:00~17:00 「我が国の牛肉生産の在り方を改めて考える～次世代に残したい畜産を～」
- 10月31日(木) **第14回 北海道肉専用種枝肉共励会**
10:00~ 北海道畜産公社 十勝工場
- 10月31日(木) **第21回資源循環型肉牛生産シンポジウム2024** 帯広畜産大学 講堂
13:00~17:00 「脱炭素社会における資源循環型肉牛生産の意義と役割2～耕畜連携における堆肥生産を考える～」
基調講演「堆肥の機能性成分と作物生産への活用」(仮)ほか

NEWSばかり読み

- 冷凍野菜が伸びる 共稼ぎや単身者増で 輸入物シェア3割 7/1:時代の動き
- 種苗業者 高温耐性の野菜品種開発増7/2:環境に合わせ
- 農水省 農業経営帯が88万戸05年度から4割減少 7/2:形態変化が減少か
- 特定農産加工措置法が施行7/2:加工の国産化がどこまで行くか
- オーガニックヴィレッジ12㊦市町村に広がる7/3:今後に期待
- 農研機構 飼料設計最安提案プログラムを公開7/3:期待感
- 政府 豪産ブドウ品種制限撤廃 輸入量2位 国産競合へ 7/5:厳しい
- 沖縄 和牛子牛相場が全国平均以下続く 7/6:震源地にならなければいいが
- 農水省 5月農業物価指数 幅広く資材で高騰続く 7/8:コストアップが
- 全農、日本ハム 畜産部門の包括連携協定締結 事業効率化 7/10:大手がくつつく
- 酪農家戸数24年2月調査 5.6%減 飼料高離農加速 7/10:減少傾向一段と
- 農水省 大豆長期保管時半額助成 国産の供給平準化に 7/11:課題解決に
- 農水省 飼料安定基金で補てん単価制度の見直し 7/15:根本財源減
- コメ相対価格6月 過去10年で最高値 端境期需給逼迫 7/17:コメが足りない
- 和牛枝肉相場が低迷 コロナ前下回る 節約指向響く 7/18:消費低迷が一段と
- 農作業の熱中症死亡者急増 7/19:爺ちゃんは無理せず
- 24年上半期食料品輸出額 3.6%減 水産物禁輸影響7/19:
- 23年外国人農地取得が90ha 国内在住個人企業7/20:
- 訪日客 6月単月で最多313万人7/20:円安メリットとリスク
- メイズ生産者協会 農水省へ畑地でも子実コーン栽培支援を 7/20:期待
- 猛暑日 今年最多288地点7/23:酷暑列島
- 和牛子牛相場低迷で補給金2万円発動7/24:厳しい経営続く
- 総務省 24/1人口動向調査で日本人最小86万人減外国人35万人増 7/25:一段と
- 配合飼料安定機構 5月飼料価格高値で推移7/25:収まらず
- 農水省 消費者意識調査 農産物高くても買う2割まで節約指向 7/26:浸透
- JA上士幌 十勝ナイタイ和牛のブランド化にオレイン酸55以上 7/26:オレイン検証
- 農水省 環境直払いで有機移行期を重点支援7/27:有効か
- スマート法基本方針 中小・家族経営等に配慮7/29:反映するか
- 農水省統計 22年度野菜作付け最小 生産縮小止まらず 7/30:野菜食えなくなる
- 農水省 コメ在庫6月末156万t過去最少7/31:引き締まる

東京直近NEWS(7/29 Shi-REPORT)

ホルス

市況相場はもちあい状況も、産地相対価格@1100前後の情報。販売状況は停滞基調で引合問合せ減傾向。切落し系の問合せ中心でスノ物も一時より一服感でてきている。上級部位は非常に鈍く、ヒレとカタローは特に鈍い印象。集荷状況は出回り頭数減少傾向から産地間での引き合いは強いが販売は日盆休みに向けて決して強くない。消費停滞感強いが枝肉単価は一定維持し実需が見えづらい。

経産牛

経産牛出回り頭数は減傾向から特にガリ枝中心に価格は一段高値継続。バラ系と赤身部位の問合せは継続もそれ以上に枝相場が上昇しており頭数も減。挽材の逼迫感は強くなってきており、産地からの値上げ要請も増加。産地の挽材在庫余裕も少なくなり、販売数量制限の情報もあり。今年度以降も頭数の回復見込みは弱いことから、物量確保の動きにも警戒。

